
IS - ACE -

つきのわぐま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS - ACE -

【Nコード】

N4654Z

【作者名】

つきのわぐま

【あらすじ】

ある国のIS研究所の実験機の事故から数時間後、コアネットワークからの通信を受けた《篠ノ之 束》と二人の協力者。

彼女達が着いた場所で保護した少女と青年。

彼女達を待ち受ける運命とは……。

Stage 1 (前書き)

最初の話を訂正しました。

理由は、初めに書いた話が頭の中で繋がらなかった為。

Stage 1

「はあ!!」

「はあ!!」

「無駄だ!!」

最後の闘い……。

全ての 神姫 とその マスター の未来を守る為の闘い。

「さん、あなたは間違ってます!」

「黙れ!!」

幾度かの攻防。

互いの神姫の武装は半壊の状態。

「私達神姫は復讐の道具じゃない!!」

「造られた存在が何を言う!!」

二体の神姫はお互いに距離を取り、射撃武器を構える。

「神姫にだって心があります!」

「所詮はプログラムだ!!」

「違う!マスターへのこの想いはプログラムじゃない!!」

「黙れ!黙れ!!」

ほぼ同時にトリガーを引く。

「貴方だって感じているはずです!」

「その子はこんな事を望んでいないって事を!」

「ッ!？」

互いの射撃は両者の間で相殺され、その爆風により、二体の神姫の距離が更に開く。

「貴方のマスターに教えてあげて!貴方の本当の気持ちを!!」

「ワタシノキモチ？リカイクノウ。リカイクノウ。」

「残念だったな！」

薄れよく爆煙の中、両者は向かい合う様に佇む。

「感情など所詮は、ライドシステムを起動するだけのキーでしかないのだよ！起動してしまえば、只の飾りなのだよ！！」

「それは違う！！今、彼女は悲しんでいる！！」

「彼女の感情が飾りだなんて笑わせないで！今、彼女は悲しい顔をしてる！！」

「五月蠅い黙れ！！これで最後にしてやる！！」

「……リヨウカイシマシタ。」

「ッ！？ルナ！こっちもいくよ！！」

「わかった！！」

そして、互いの最強の一撃が衝突し、周囲が光の奔流に吞まれる中、私達の意識は薄れていった。

設定その1（前書き）

皆さん、おはようです?こんにちわです?こんばんわです?

今回はStage1でてきた武装神姫のキャラクターと神姫を紹介します。

設定その1

名前：星月ほしつき月ゆえ

性別：女

設定：武装神姫の未来を守る闘いの最中、相手のレールアクションと自分のレールアクションの衝突の光に包まれ、気が付くとパートナーのエストリル型神姫『ルナ』と共に束の隠れ研究所に居た。容姿は、黒髪のショートヘア。瞳の色は黒。身長は165cm。

名前：ルナ

神姫タイプ：エストリル型

設定：桃色のショートヘアで瞳の色は青。マスターは『星月 月』。武装神姫の未来を守る為、マスターの月と共に闘い、お互いのレールアクションの衝突の光に包まれる。

Stage 2 (前書き)

設定その1に続いて、Stage 2を連続投稿!!

Stage 2

「一体何なのよコレ!?!」

突然の事態に私【ほしつき星月 ゆえ月】は混乱していた。

目の前には、砲身の付いた四本足のロボット。

後ろには、目の前のロボットとは少し型が違う四本足のロボット。

「マスター!後方からミサイル来るよ!」

「ああもう!」

パートナー【ルナ】の声に従い、スラスターを起動させて、ミサイルを何とか回避する。

そして、その勢いのまま目の前の砲身の付いたロボットに近く。

「これなら!」

右手に持った《E.V.F.ベイオネット》をロボットの胴体に向けて構える。

僅かな衝撃と共に杭が射出され、ロボットの胴体を貫く。

「まず、一つ！」

「またミサイルが来るよ！」

貫いた杭を引き抜くと共に、ロボットをミサイルの進路上に蹴り飛ばす。

ミサイルの進路上に蹴り飛ばした事により、ミサイルの大半はロボットに当たり、残りもその爆発に巻き込まれ、辺りに爆煙が立ち込める。

「ルナ！標準のサポートお願い！！！」

ルナに指示をだし、リヤパーツの左側にマウントした《LC3レーザライフル》を構え、チャージを開始する。

「ロックオン完了！」

「これで。」

ルナのサポートにより、爆煙の中のもう一体に標準を合わせ、チャージが完了と同時に引き金を引く。

「ラスト！！！」

私の攻撃は爆煙を吹き飛ばしながら、残りの一体のロボットに当たり、機能を停止させた。

「……こんなに威力あつたっけ？」

「まあ、チャージしたぶん威力は上がるけど……、コレはちょっと……」

私達の目の前にいるロボットの状態はと言うと……、攻撃が当たった所が丸々消し飛んでいて、右半分がない状態なのだ。

おかしい、今までチャージしても此処までの威力は無いはず……、もしあつたら神姫バトルは等になくなっている。ってか、私達は何体もの神姫達を葬った事になるからヤダ。絶対ヤダ。

「とりあえず、無かつた事にしよう……。うん、そうしよう。」

「現実逃避は駄目だよ。向こうからまた同じのが来るけどどうする？」

ルナの言う通り、薄暗い通路の向こうから幾つのも赤い光が此方に向かってくる。

「とりあえず、チャージ完了。」

「もうヤダ！お家に帰りたいの！！」

そう叫びながら、チャージの終わった《LC3レーザーライフル》をロボットの大群へと放った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4654z/>

I S - ACE -

2011年12月21日21時46分発行